



満員となった仏教専門講座開講式の様子

宗教ばなれ、寺ばなれの声を聞く度に、自分には何か言いようのない無力感を感じます。誰かが頑張つたらどうなるというようなもんじやない…って。

そんな時、本年度より高田短期大学で「仏教専門講座」が開講されました。この講座は、高田本山がお願いして広く一般に呼びかけた公開の宗教講座であります。十人集まつて下さればなんとか始められるんだがよそに、なんと発表まもなく応募者が殺到し、早々定員オーバーの結果となりました。宗教

心の根には、本当の自己を真に成就させたいという願いが動いているのです。本当に死んでいく教えに遇わなければ、本当に生きたことになります。宗教心はあらゆる命にあって、どこまでもこの私を離れず、内から呼びかけ続けてくださつている如来さまなのでありました。

総務 藤澤 真純

## 宗教ばなれ？



発行所  
真宗高田派宗務院  
三重県津市一身田町2819  
電話 059-232-4171  
FAX 059-232-1414  
HP [www.senjuji.or.jp](http://www.senjuji.or.jp)



発行部数 35,000部

寺社の伽藍ばなれだったのです。生活の現場はいよいよ本来の救いを渴仰しているのでした。

「パチンコに入れ込んでなんともならん。酒飲みでどうしようもない。旅行に行きまくつと自分をもて余すようなあり方。

それは、今にいたたまれないという宗教心の促しであるのです。」と聞きました。苦悩する



南無阿弥陀仏



①御廟拝堂【安政5年(1858)建立】



②御廟唐門・透塀【文久元年(1861)建立】



③通天橋【寛政12年(1800)棟上】



④山門【宝永元年(1704)頃完成】



⑤唐門【天保15年(1844)棟上】



⑥鐘楼【宝永元年(1703)頃再建】

## 新しく 国の重要文化財に 指定された

# 専修寺諸堂

五月十七日に開催された文化審議会の答申において、「専修寺 十一棟」を国の重要文化財に指定すべきことが決定されたことは、新聞等で御存知のことと思います。すでに、御影堂と如来堂が昭和三十六年に重要文化財に指定されていますので、これで、高田本山の重文建造物は三件十三棟となりました。

本山だより九十号（平成二十四年六月十五日発行）に、「御廟の修復とさん山ない内全域文化財指定へのみち道のり程」と題して、専修寺諸堂の文化財指定に向けた調査が実施されてきたことをお伝えしたのはちょうど一年前です。

今回の重要文化財指定について忘れてならないことは、昭和五十八年（一九八三）の如来堂大修理工事に始まった、親鸞聖人七百五十回おん御き忌に向けての境内諸堂の長期間にわたる修理事業が、物心両面にわたる多大な御助力を頂戴した御同行の皆様と、工事関係者の皆様の御努力によって完遂されたことです。同時に、境内堂舎の防災工事とセキュリティも強化され、人々が「あまねくう請ける」ことを意味する「ふ普しん請」の言葉にふさわしい、世代を越えて継続された三十年間の大修復事業であったと思います。

そして、この重文指定の新聞記事から二週間後の五月三十一日には、津市が国の制度である「けい景かん観行政団体」になることを表明されたことも、これから高田本山専修寺と一身田じ寺ない内ちよう町の歴史的町並み保存への将来にとって心強いニュースとなりました。



⑦太鼓門【文久元年(1861)完成】



⑧御対面所【天明6年(1786)再建】



⑨大玄関【寛政2年(1790)再建】



⑩茶所【宝暦10年(1760)建立】



⑪賜春館【明治11年(1878)建立】

七高僧シリーズ⑤

曇鸞大師（上）



親鸞聖人の「親」という字は天親菩薩から、「鸞」の字をこの雲鸞大師（和尚）から頂戴しているよう、聖人は雲鸞大師の教えを大変重んじられました。それは聖人が七人の高僧方を讃えられた『淨土高僧和讃』の中でもこの雲鸞大師の和讃の数が三十四首と一番多いことからも伺うことができます。

その雲鸞大師は五世紀後半に中国北部に生まれられました。幼くして出家さ

れ、やがて優秀な学僧となられたのですが、師が阿弥陀仏による救済を願う浄土教に出遇われるまでには、そのあとの大変な糺余曲折を待たなくてはなりません。

曇鸞大師は『大集教』と  
いう膨大な量の經典の注釈  
書の作成に取り掛かれま  
したが、途中、ご病気とな  
られ療養を余儀なくされた  
ため、研究を続けられなく  
なつてしましました。そこ  
でこの先この事業を続ける

のが」と問われれば、喜揚流支は曇鸞大師の過ちを  
しく諭され、生死そのもの  
を超える御教えがあること  
を説かれたのです。師は深  
く慙愧されると共に、苦労  
して手に入れられた仙術の  
経文をその場で焼き棄てて  
しまわる所以でした。

この二人の出来事の中では、聖人は『正信偈』の中で、「三藏流支授淨教」(さんぞうりゅうしゆじょうこう)と「經帰樂邦」(きょうきうぽう)、「三藏法師菩提流支より浄土の御教えを授けられ、仙經を焼き棄てて苦しみを離れた楽邦に入らされました)と重大な出来事として伝えられています。これは単に曇鸞大師の信仰上の出来事にとどまらず

ためには、まず自身が不老長生を身につける必要があると考えられ、仙術として

ず、やがて曇鸞大師をして  
天親菩薩の『淨土論』の真  
髓を解き明かし、南無阿弥

註 ちゅうとして顕らかにしてくださることとなるのです。



## こんな行事がありました



**◆3月27日～29日 中学生教化合宿**  
中学生教化合宿は毎年、本寺専修寺にて一泊します。みんなで阿弥陀様に合掌してから、あらためて手を合わせて食事に感謝し夕食をいただきます。食事をする、食べるのではなく、いただきますという姿勢。私たちは、たくさんの恵みを頂いていのちを繋いでいることを決して忘れてはいけないのでしょうか。



**◆3月31日 中井智弥ライブ**  
三重県津市出身の二十五弦箏奏者「中井智弥」氏の里帰り一身田寺内町ライブが開催されました。



**◆4月21日 はなまつり**

お釈迦様の生誕を祝う「はなまつり」が開かれ、たくさんの子どもも達が参加してくれました。甘茶の灌仏をして、一身田寺内町を白ゾウと一緒に歩きました。



**◆3月23日～4月6日 写生大会**  
本山写生大会が春休みにわせ約二週間の期間開催されました。三十九名の参加者を数え、みんなそれぞれが思つざいます。  
高田本山賞には福島佑香さん（中学一年生）が選ばれました。（左図）おめでとうございます。

た本山の建物を描いてくれました。

**◆5月21日 親鸞聖人降誕会**  
親鸞聖人降誕会がお勤めされました。御参廟に続き御影堂にて本山褒賞・本山表彰・祖師寿の表彰式が行われました。



三重テレビエンタープライズ代表取締役社長、志田行弘様が御廟唐門前に植樹していました。ありがとうございました。ありがとうございます。



本山褒賞 東海寺住職 新光晴氏

## ご和讃のお話

田中  
明誠

釈迦弥陀は慈悲の父母

種々に善巧方便して  
むじょうう しんじん  
われらが無上の信心を

(淨土高僧和讚 善導禪師 第十三首)

今回この和讃についてあらためて読みなおしていきたところ、ふと次の言葉が思ひ出されました。

このうち そのうち  
日が暮れる  
いまきたこの道

（相田みつを『そのうち』）  
かえれない

考へてみると、私の日常はまさにこの「そのうちそ  
のうち」の日常であります。

「そのうち お金がたまつ  
たら」「そのうち 子供が  
手を放れたら」「そのうち  
時間がとれたら…」「そ

「そのうち」という人生  
は空しい人生です。いつて  
みれば拠り所を知らない生  
き方ともいえます。何が本  
当の拠り所なのかわからぬ  
まま生きている。そんな人  
は仏を拝むといつても、仏  
様がどこにいるのかわから  
ない。わからないままで、  
「どこかにいるだろう」と

それはただの気づきでは  
ありません。そのあてになら  
ないことを教えてください  
るものこそ慈悲の善巧方便  
である。それこそが仏様で  
あつたと頭が下がるので  
しょう。あてにならないも  
のをあてにしている私に、  
釈迦弥陀の二尊が教え示さ  
れるもの、それは念佛であ

のうちきつと：「今より将来。漠然とした明日を夢みて生きている。けれども「そのうち」はそのまま「結局何もやらなかつた」「空<sup>むな</sup>しい人生の幕がおりて」死んでゆくだけ。

発起とは左訓に「ひらきおこす、たておこす」とあります。そのように「われらが無上の信心を」発起せしめられた人は、「そのうち」といっていたわが身に気づかされるのです。

漠然と仏像に手を合わせて  
いるのではないでしようか。  
親鸞聖人は、釈迦・弥陀だ  
の二尊は「慈悲の父母」で  
あると示されます。この慈  
悲の父母は「種々に善巧方  
便して」日々の生活の中か  
ら私によりかけ続けておら  
れます。この場合でいうな  
らば「そのうちなんてあて  
にならないよ」と。

り、それこそが唯一抛り所  
になるものとよびかけ続け  
てくださっています。



世の中安穏なれ 仏法ひろまれ  
社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鈎金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所  
〒514-0114 三重県津市一身田町2819  
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414  
(本山宗務院内 絵所)

えいじゆくひがしう  
絵所頭 宮川如風

## 御本山御用達

# 鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）  
電話 (075)371-0854・8181～2番  
FAX (075)344-2701番  
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344



六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

## リレー法話

### 頂きもの

松山 深令

先日叔父さんの七回忌法要に行つてまいりました。

酒飲みの叔父さんで、若い頃はよく場末の飲み屋さんに呼び出されました。そこでお酒を飲みながら、仏教についてのいろんな話を聞かせてもらいました。

御葬儀も終わり、中陰も終わつて初盆を迎える頃となりました。先方も寺、当方も寺で、お盆の忙しい時期です。私が手を合わせてどうなるものでもないのですが、でもどうしても手を合わせたくて、忙しくなる直前にお邪魔をし、御仏前に手を合わせて頂きました。

思い起こしてみると、主にお酒の席ですが、叔父さんは、いろいろ僧侶として大切な事を教えてもらった気がします。大切なものを頂いたのです。そこで初めて気付きました。当然の事ながら、両

親からも沢山頂いています。学校の先生からも、友達からも、またその友達はその御両親からもetc

そう考えたとき、気付きま

した。この私は、頂き物で一杯なのだと。

いかにも自分一人で努力し、勉強してここまできたと考えていましたが、実はそうではなかったのです。若いころ、近所の人には「此の度、息子さんが入学されたそうで、おめでとう御座います」と言われました。母が「おかげさま

で」と答えていました。そのころ私は、「私が努力したから入学できたのであって、近所の人のおかげではないのに」と思いました。しかし、母は正しかったのです。今この私と云うものは、私の努力の成果ではなく、実は頂き物で一杯なのです。まさに「おかげさま」なのです。

所の人のおかげではないのに

自分の力で得た命なら、無駄にしようと捨てようと、自分で一杯のこの命、亡くなつた叔父さん、両親、その他大勢の人々から頂いた（阿弥陀様からお預かりした）この命、いずれ死ぬる時が来るまで、精一杯生きさせて頂くのが「おかげさま」「なんまんだぶつ」と云う事ではないでしょうか。



(亀山市 浄安寺住職)

合掌



高田本山御用達  
三重県仏教会御推薦



高級御影石専門店

**御影石材株**

(石に御用の方は) 0120-142540  
本店 津市広明町(影見寺門前)  
☎ 059-224-1700(代)

お 墓

寺 標

墓地移転

靈園開発造成

高田本山御用達

全国優良石材店、認定店

創業110余年

株式会社

**ストーンズ 石仙**

(旧(有)山本石材店)

0120-67-4114  
四日市市近鉄阿倉川駅前 ☎ 059-331-4114



緑と共に75年  
三重県知事免許認可  
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

**山本造園**

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町869-77  
TEL 059-232-7453  
FAX 059-232-7453

**これからの中の本山諸法会****◆歓喜会**

八月十四日～十六日

お盆の法会を我が宗では歓喜会と呼んでいます。仏縁によって私たちが救われるお示しの、仏恩の尊さを喜ばせて頂くご縁として勤められています。歓喜会のお勤めは、如来堂で三日間勤められます。

**◆讀佛会(秋彼岸)**

九月一十日～二十六日

讀佛会のお勤めは如来堂にて、彼岸の入りより七日間勤められます。お彼岸のお日中には、御影堂に於いて御親教が行われます。

**◆資堂講法会**

十月一日～三日

資堂講は普く有縁の方々が加入であります。講として設けられ、ご教化の一端とされたものです。現在、法会は御影堂に於いて十月一日より三日間、お日

中をもつて別時のお勤めが講加入者の法名記載の過去帳を中央卓に置いて勤められます。

お日中 午前十一時三十分より

**◆納骨堂法会**

十一月三日～四日

ご本山への納骨は宗祖聖人のお徳をしのぶとともに、亡き人も聖人の御廟のそばへ葬つてあげたいとの大きな願いが出されて以来、今ではかならず納骨するならわしが定着しました。納骨堂の加入者は先祖から親へと伝えられた報恩謝徳の姿をつぶさに押し感じることです。法会は御影堂、納骨堂に於いて十二月三日、四日の両日、お日中をもつて別時のお勤めが勤められます。

**これからの中の本山諸行事****◆第二十一回法話発表大会**

九月十日 午前十時より

聴聞無料

**◆第五十七回檀信徒研修会**

十月 未定

**◆歴史まるごと体験塾(対象小学生)**

八月六日～八日

**第87回佛教文化講座  
一般聴講歓迎 聽講無料****とき 8月1日(木)～5日(月)**

午前9時より正午まで

初日は9時半より開講式

8/1(木) ●法主殿御親講

8/2(金) ●講師／アーユス佛教国際協力ネットワーク理事 東洋大学非常勤講師 本多靜芳先生

【講題】真宗のいのりと歴史認識問題

～仮性と信心～

8/3(土) ●講師／東京都立大学名誉教授 峰岸純夫先生

【講題】中世東国の真宗門徒と高田専修寺

8/4(日) ●講師／ものづくり大学総長 国際日本文化研究

センター顧問 梅原猛先生

【講題】存覚と『正明伝』

8/5(月) ●講師／青巖寺住職 高田短期大学非常勤講師 清水谷正尊先生

【講題】善鸞義絶後の親鸞聖人

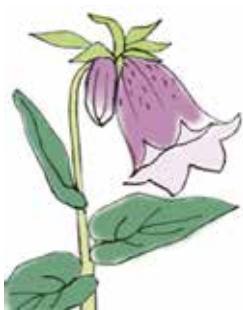
**申し込み方法**

受付期間 7月1日(月)～7月31日(水)

申込方法 ハガキ、FAX、メール

申込内容 氏名(ふりがな)、性別、年齢、住所、電話番号、教師検定の審査希望(高田派僧職の方のみ記入)  
受講科目名(一般受講の方のみ記入)  
宿泊先の斡旋希望、昼食の希望(〇〇日～〇〇日)**お問い合わせ**

〒514-0115 三重県津市一身田豊野195番地  
高田短期大学佛教教育研究センター基礎講座係  
TEL／059-232-2310(代表) FAX／059-232-6317  
E-mail／b-center@takada-jc.ac.jp



三尊さまは昔から世直しの仏さまとも呼ばれ、数多の不思議な話が伝えられ、ご開扉の度に『靈験記』としてまとめられてきました。なかでも、享保十四年の初めてご開扉がされたときの記録を、三重県多気郡明和村の転輪寺の住僧であった教娛が『高田如来靈験記』としてまとめられた書が、前回のご開扉のおり『三尊さまむかしばなし』として現代訳で読みやすく改められ出版されました。

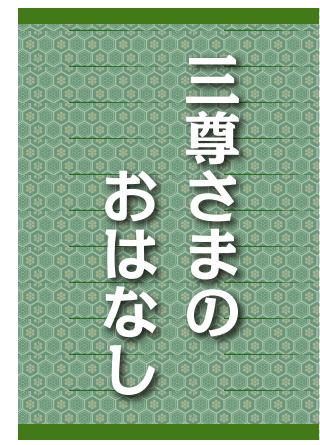
平成二十六年四月に三尊さまをお迎えし、ご開扉法会を営むにあたり、『本山だより』にて『三尊さまむかしばなし』から何話かを連載することにいたしました。

ところが、九月十四日の夜のこと、奥さんが不思議な夢を見たのです。その夢は、自分の寝室の戸口の上に、白い雲が渦巻いて、その雲の上に三尊さまがお立ちになつている夢でした。そのお姿をありありと拝んだ時、目が覚めたのです。

その頃は、まだ三尊さまが伊勢へお出向くなるといううわさされない時でした。ですから奥さんもそんなことには少しも気付かず、ただ夫の半右衛門の両親の命日が十四日であり、自分の父親の命日も十四日でしたので、なにかわけがあろうかと思つて夫にこの

とも呼ばれ、数多の不思議な話が伝えられ、ご開扉の度に『靈験記』としてまとめられてきました。なかでも、享保十四年の初めてご開扉がされたときの記録を、三重県多気郡明和村の転輪寺の住僧であった教娛が『高田如来靈験記』としてまとめられた書が、前回のご開扉のおり『三尊さまむかしばなし』として現代訳で読みやすく改められ出版されました。

田半右衛門という人がいました。この奥さんはふだんから信心の篤い人でしたが、半右衛門は民間人の中でも郷監察の役目を引き受け勤めている人で、信仰にはむしろ縁遠い人でした。



## 夢の予言(上)



伊勢の安濃郡大塚村の長で、倉田半右衛門という人がいました。この奥さんはふだんから信心の篤い人でしたが、半右衛門は民間人の中でも郷監察の役目を引き受け勤めている人で、信仰にはむしろ縁遠い人でした。

夢を打ち明けたのです。半右衛門も不思議に思ったものの、その夢がよい夢か悪い夢かもわからないので、決して人に言つてはならぬといましめて日がたつて行きました。その後、二十日になつて三尊さまが本山へお越しになるとの報が伝わり、翌月の十四日から拝観が許されるとの告示が知らされました。あの夢が今月の十四日、ご開帳が来月の十四日、これはたしかにただ事ではない。ひょっとするとこの仏さまのお告げではなかつたかと、奥さんは初めて思い合すのでした。

寺院名

## 十七年に一度だけのご縁

- 一光三尊佛御開扉 平成二十六年四月三日(木)から十一日(金)まで
- 一光三尊佛慶讚法会 四月三日(木)から五日(土)まで
- お迎え団参 三月二十九日(土)から三十一日(月)まで

※今回も寺院単位でお迎え団参を募集いたします  
本寺専修寺の御開扉法会に合わせて、三尊さまをみんなでお迎えにあがります

真宗高田派本山 専修寺

三重県津市一身田町2819 TEL 059-232-4171

<http://www.senjuji.or.jp/>

高田本山

検索

(次号へつづく)